

## 研究主題

# 「支え合い、高め合い、ともに学び続ける生徒の育成」

～「聴（訊）き合う関係」を大切にした主体的な学びの創造～

## 1. 研修の基本方針

人口減少や高齢化、グローバル化がこれまで以上に進み、また、超スマート社会が急速に進展する中で、「変動性、不確実性、複雑性、曖昧性」を特徴とする、将来予測の困難な時代が到来しようとしている。次代を担う生徒たちには、社会全体のウェルビーイング（生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福）の実現に向け、自ら課題解決について考え、他者との絆を大切にしながら、持続可能で豊かな未来を切り拓いていく力や、主体的に学び、困難を乗り越え、自信と高い志を備えた、責任ある行動を取る力が求められている。生徒たちは一人一人かけがえない存在であり、生まれながらにして豊かに育つための権利がある。生徒たちには自ら育つ力と多くの可能性があり、一人一人が力を発揮し、心身ともに健やかで豊かに育つことができる社会を創っていく必要がある。このため、一人一人の学びを支えていくという認識を学校・家庭・地域等が共有し、相互に連携・協力しながら、生徒たちが学ぶ楽しさやわかる喜びを実感できるよう、社会総がかりで取り組んでいく必要がある（みえの学力向上県民運動基本方針 基本理念を参考）。

そのため、授業を通して学習指導要領をふまえ、「何を理解しているか・何ができるか」（生きて働く知識・技能の習得）、「理解していること・できることをどう使うか」（未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成）、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養）といった視点を重視した力を育成していきたい。これらの新しい時代に必要となる資質・能力をバランスよく育成するためには、生徒が教科の本質に即した質の高い課題に教科の見方・考え方を働かせながら取り組む必要がある。生徒は授業の中で、様々な人と関わり合いながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、身の回りの環境をよりよくしたりできることなどの実感をもつことができるようになる。そうした実感は、生徒にとって、自らの活動が身近な地域や社会生活に影響を与えるという認識につながる。

上記のことを踏まえ、本校は、生徒一人ひとりの学びを保障する授業を目指し、〈聴（訊）き合う関係〉〈ジャンプ課題（\*）〉〈教科の本質に即した学び〉を授業づくりの核としてきた。今後も生徒同士の関わり合いを目的とした座席配置やペア・小グループによる活動を取り入れることを手立てとして、ともに学びあう生徒を育てていきたい。

また、教科部会・授業研究・研究協議を行うことを通して、各教科の専門性を高めるとともに、

教科の横断的な学びや授業力向上につなげたい。

(\*) 難易度が高い課題により対等な関係を築ける、子どもが心を揺さぶられ、夢中になって取り組みたくなる課題のこと。

## 2. 主題設定の理由

本校では13年前より『学びの共同体』の授業スタイルを導入し、「一人ひとりの学びを保障する授業づくり」を進めてきた。取り組みの中で、生徒は聴（訊）き合う関係性を築き、難易度の高い課題に対しても解決しようとする姿が見られた。どの生徒も安心して学べる環境を作るためにも、教師が、生徒の聴（訊）き合う関係を大切にしたり、生徒の姿から授業改善を行ったりする取り組みをより一層深めていく必要がある。そのために、教師は「聴く・つなぐ・もどす・ケアする」という役割を自覚して日々の授業に臨みたい。このことが、学びをあきらめず、自分を大切に、他者を受け入れ寄り添うことができる生徒を育てていくことにつながることを願い、本主題として設定した。

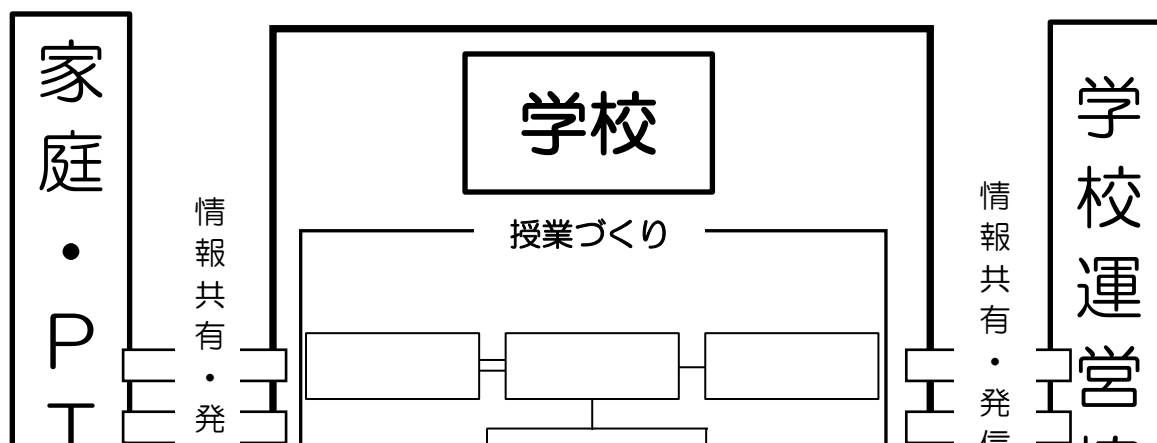
## 3. 本年度の取り組み

以下の5点を重点的に取り組み、「誰一人取り残さない授業」を創造する。

- ① 普段から教師も生徒も学び合える、よりよい関係づくりに努める。（GWTの活用、わからないことがわからないと言える安心感のある空間）
- ② 学び合いの場づくりを行う。（ペア・グループの活用、コの字型・3～4人男女混合市松模様の座席配置、さえぎらない・机のすき間＝心のすき間を作らない）
- ③ 教師は教科の特性に応じて、生徒をつなぐための「聴く・つなぐ・もどす・ケアする」という役割を行う。
- ④ 個々の生徒を見取り、満足感や達成感を味わえるような工夫や支援をする。
- ⑤ 教科部会を定期的に関き、生徒の姿から授業改善をすすめる。

## 4. 組織体制

研修委員会：校長、教頭、研修主任、研修担当（各学年より1名）、人権担当（代表1名）



## 5. 研修部の重点的な取り組み

### 【授業力向上】

- 授業を通して、めざす生徒像、めざす仲間集団を実現するための取り組み。
- 「聴（訊）き合う関係」を大切にした学び合いの実現。
- 主体的・対話的で深い学びとなるような授業の実現。
- 「わかる・できる」が実感できる授業の実現。
- 系統的な人権学習を推進し、お互いのちがいを認め合い、安心して学べる集団づくり。

#### ↓ 具体的な手立て

- ①教師が授業を参観し、研究をする場の設定。
- ②授業研究、校内授業研修会、教科部会の計画・準備。
- ③誰もが安心して、学び合える授業を実施できるような具体策の発信、検証、改善。
- ④安心して学ぶための「**学びの約束**」の統一。
- ⑤生徒アンケートの作成・検証。
- ⑥教育的に不利な環境にある生徒がいきいきと学べるような人権学習の手法の発信・啓発・日常化。

### 【学力向上】

- めざす生徒の姿を実現するために必要な学力を生徒が身につけるための取り組み。

#### ↓ 具体的な手立て

- ①全国学力状況調査やみえ・スタディチェックから本校の現状を把握し、全体へ発信し、各教師の授業改善につなげる。
- ②家庭学習チェックシート作成、計画、検証。
- ③効果的な放課後学習や家庭学習の方法の発信。
- ④読書活動の推進。

## 6. 全ての教師で共通認識すること

### 【授業研究】

- ・授業の中で、めざす生徒像、めざす仲間集団を全ての教師で実現する。
- ・安心して学ぶことができるクラス、聴（訊）き合う関係を大切にした授業を創る。
- ・主体的・対話的で深い学びとなるような授業を行う。

#### ↓ 具体的な手立て

- ①日々の授業から「聴く」こと、「関わる」ことを大切にする。
- ②聴（訊）き合う集団をつくるために場の設定（コの字、グループ、ペアの活用）をする。
- ③授業の中で、1人では解けない、「対話」する必要がある課題を考えていく。
- ④生徒の姿を丁寧に見て、生徒の姿から授業改善をしていく。
- ⑤授業規律（特に「聴く」こと）を統一する。

### 【学力向上・改善】

- ・「めざす生徒像の実現」という目的達成のために行う。

#### ↓ 具体的な手立て

- ①授業での生徒の姿やみえスタディチェックから現状・課題を把握し、授業改善につなげる。  
(現状の発信は研修部から行う。)
- ②家庭学習や読書活動を推進する（チェックシート等）。
- ③放課後学習、家庭学習を効果的に実施し、学力保障をする。

## 7. 年間研修計画

### ・全ての教師に校外研修に行ってもらう。

ちなみに、来年度は千代崎中学校が鈴教研の発表。

### ・教師が学びたいテーマの研修を年4回(5・8・10・11月)実施する。

### ・授業研修は年3回。公開研はそのうち2回(2・3学期)。

日程		内容	授業者	備考	学力向上
4	3	(水) 校内研修 (今年度の研修計画)			学調 (4.18) みえスタ2年(4.24) みえスタ1年(5.9) ↓ 分析 (教科・学年)
	1 2	(金) シラバス完成		HP, Classroom掲載 授業で説明	
5	2 9	(水) 校内研修①		【生徒理解】	
				【学級経営】	
6	1 0 ~ 1 4	(月) 校内授業公開week		【授業力向上】	

		～ (金)				
	1 4	(金)	全体授業研修①	1人(3年生)	【授業力向上】	
8	1	(月)	校区人権・生指交流会		【人権・生徒理解】	
	2 1	(水)	校内研修②		【学級経営】	
9	1 3	(金)	第1回公開授業研究会 (全体授業研修②)	1人(2年生)	【授業力向上】	
10	7～ 1 1	(月) ～ (金)	校内授業公開week		【授業力向上】	
	2 9	(火)	校内研修③		【レジリエンス】	
11	2 7	(水)	校内研修④		【未定】	
1	2 9	(水)	第2回公開授業研究会 (全体授業研修③)	1人(1年生)	【授業力向上】	
2	1 2	(水)	校内研修(成果と課題)		職員会議で提案	
3		( )	校内研修 (来年度に向けて)		教科部会等	

#### ○聴き合う関係

場と環境が設定され、対話を通して、わからなさを共有しながらお互いが支え合う関係。学びのベースとなるもの。

#### ○ジャンプ課題

難易度が高く、学力差に関係なくみんなで考える必要がある、夢中になって学ぶことができる課題。

#### ○教科の本質に即した学び

教科の背後にある学問や文化の本質に迫るような学び(例:文学には文学らしい読みがある。数

教科の本質に即した学び  
(真正の学び)



聴き合う関係

ジャンプの課題

### 学びの約束(全教室に掲示する)

- 1 人の話をしっかりと聴きましょう。
- 2 「わからない」ときは「考え」ましょう。
- 3 「考え」ても「わからない」ときは「ここどうするの?」とききましょう
- 4 「ここどうするの?」ときかれたら、わかるまで支えましょう。

聴き合い・学び合いを通して、「主体的・対話的で深い学び」をめざす

## 学習指導要領改訂の方向性

### 新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

### 何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

**「社会に開かれた教育課程」**の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

### 何を学ぶか

#### 新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など  
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない※**

### どのように学ぶか

#### 主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成  
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善



※高校教育については、些末な事象的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。